

第 588 回 難研セミナー

第 161 回 難治疾患共同研究拠点セミナー

下記により難研セミナーを開催しますので、多数御来聴下さい。

記

日 時： 2019 年 1 月 28 日（月） 17:30 ～ 19:00

場 所： M&D タワー2 階 共用講義室 1

演 者： 吉村 昭彦 教授
(慶應義塾大学医学部 微生物学・免疫学教室)

演 題： 脳梗塞による脳損傷後の免疫応答：自然免疫から
獲得免疫まで

要 旨： 脳梗塞では虚血による脳損傷後に炎症性マクロファージが活性化されて急速に自然免疫応答が起き梗塞が拡大する(1)。その後 2-3 日目に浸潤する $\gamma\delta$ T 細胞からの IL-17 が炎症の拡大と神経細胞死を促進する(2)。しかし梗塞発症 3 日以降はマクロファージが炎症性から修復性に変化して DAMPs を処理することで炎症を収束させる(3)。さらに梗塞 2 週間後の慢性期には制御性 T 細胞が大量に浸潤し脳 Treg と呼ぶべき性質を獲得しアストロサイトの活性化を制御することで神経症状の回復を促進する(4)。

参考文献

(1) Shichita et al. Peroxiredoxin family proteins are key initiators of post-ischemic inflammation in the brain. Nat Med. 2012 Jun;18(6):911-7.

(2) Shichita et al. Pivotal role of cerebral interleukin-17-producing gammadeltaT cells in the delayed phase of ischemic brain injury. Nat Med. 2009 Aug;15(8):946-50.

(3) Shichita et al. MAFB prevents excess inflammation after ischemic stroke by accelerating clearance of damage signals through MSR1. Nat Med. 2017 Jun;23(6):723-732.

(4) Ito et al. Brain regulatory T cells suppress astrogliosis and potentiate neurological recovery. Nature 2019 Jan;565(7738):246-250.

連絡先：生体防御学分野 樗木 俊聡 (内線 4746)

共 催：病態細胞生物学分野 清水 重臣